

# 成蹊会誌 53

1981年6月



# 成蹊学園概況

(成蹊学園  
総務課提供)

## 一 学校法人成蹊学園理事・監事

理事長	古賀 繁一	専務理事	新井益太郎
理事	○朝倉 孝吉	理事	○河野 義克
	○石坂 泰彦		○国分 勇雄
	○岩崎 寛弥		○佐藤 竺
	○岩崎 忠雄		○三橋 啓了
	○上野 裕也		○宗像 英一
	○大槻 文平		○生野 專吉
	○小笠原光雄		○高山 一彦
	○奥住 正彦		○谷岡喜久蔵
	○梶谷 文		○丹治 道生
			○中田 乙一
			○印は卒業生
理事	野田 彰	理事	堀田 庄三
			千頭 暎臣
			佐々木 直

## 二 成蹊学園

学 長	朝倉 孝吉	文学部 部長	高山 一彦
経済学 研究科 長	上野 裕也	文学部 研究科 長	佐藤 竺
経営学 研究科 長	三橋 啓了	法学部 部長	奥住 正彦
工学 研究科 長		法学部 政治学 研究科 長	野田 彰
		成蹊高等学校 校長	
		成蹊中学校 校長	
		成蹊小学校 校長	

## 三 近 況

### ◇成蹊大学アジア太平洋研究センターの設置

さる四月一日から大学の付属機関として「成蹊大学アジア太平洋研究センター」(Seikei University Center for Asian and Pacific Studies)を設置

いたしました。この研究センターはアジア太平洋地域に関連する各分野の学際的、国際的研究の促進に寄与せんとするものです。

### ◇武蔵野市民聴講生(シルバー聴講生)について

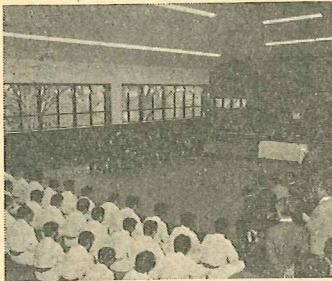
武蔵野市と提携して本年度より同市在住の高齢者(六十才以上)を対象にした聴講生(聴講料市負担)を受入れることになり、三十八名の聴講を許可しました。

### ◇西部室第三棟(柔道場)の竣工

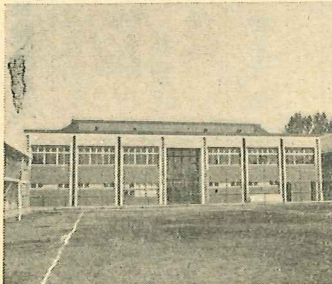
本年三月二十三日竣工を執り行いました。建物は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造三階建、延床面積約一、二一〇平方メートルで、一、二階は部室、三階は一六〇畳敷の柔道場のほか師範室、部室、器具室、シャワー室等が設けられております。

### ◇中学・高等学校第二体育館の竣工

施設建設募金対象事業として、小学校中央館に引き続き、本年三月二十三日竣工を執り行いました。建物の位置は既設体育館(第一体育館)の北側隣で、延床面積一、七九〇平方メートルで、体育館本体(アリーナ)には、バスケットボールコートとバレーボールコートが設けられ、付属建物には小体育室、教員室、更衣室、シャワー室等が設けられております。



西部室第3棟(柔道場)



中学・高等学校第2体育館

項目	大 学 院										学 部				計
	工学研究		経済学		法学政治学		文学		経営学		経済学部	工学部	文学部	法学部	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	修士	前期	後期						
	大学院		大学院		大学院		大学院		大学院						
進	1										22(2)	3(2)	1	27(4)	
学															
留										1		10(6)		11(6)	
学															
小										1	22(2)	13(8)	1	38(10)	
計															
就	24									354(59)	244(9)	335(279)	292(42)	1,254(392)	
職	100%									100%	100%	100%	100%	100%	
率															
小	24									354(59)	244(9)	335(279)	292(42)	1,254(392)	
計															
家	1									14(4)	10	4(3)	3	33(7)	
業															
継															
承															
手										7(7)	2(2)	40(40)	5(5)	54(54)	
伝															
其										16(1)	4	40(31)	26(6)	90(40)	
他															
小	1									2(2)	2				
計															
計	25									37(12)	16(2)	84(74)	34(11)	177(101)	
計															
計	25									392(71)	282(13)	432(361)	327(53)	1,469(503)	

( ) 内は女子の内数

六、昭和五十五年大学卒業生の就職・進学状況

卒業生総数		273
進学者数		202
進学者内訳	成蹊大学	126 (内推薦126)
	国立大学	56
	短期大学	6
	その他	71
大学名		入学者数
成蹊大学	経済学部	71
	工学部	6
	文学部	21
国立大学	小樽大学	1
	波島大学	3
	玉京大学	2
	橋本大学	2
	東京工業大学	2
	外国語大学	1
	東京大学	1
	一橋大学	1
	東洋大学	1
	東海大学	1
神奈川大学	1	

所 属	教 職 員 数			在 学 生 数			
	専 任	非 常 勤	計	男	女	計	
	大 学 院				36	2	38
学 部	工 学 研 究 科			2	1	3	
	経 済 学 研 究 科			10	0	10	
	法 学 政 治 学 研 究 科			7	6	13	
	文 学 研 究 科			6	0	6	
	経 営 学 研 究 科						
学 部	学 長 部	1					
	経 済 学 部	46		1,501	214	1,715	
	工 学 部	98	260	479	1,081	39	1,120
	文 学 部	42			473	1,267	1,740
法 学 部	32			1,348	203	1,551	
小 計	219	260	479	4,464	1,732	6,196	
高 等 学 校	47	17	64	586	364	950	
中 学 校	38	14	52	489	271	760	
小 学 校	32	2	34	460	281	741	
養 護 教 諭	5		5				
事 務 ・ 技 術 ・ 労 務 職 員	191		191				
合 計	532	293	825	5,999	2,648	8,647	

四、教職員及び在学生数(昭和五十六年五月一日現在)

大 学	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	倍 率	成 蹊 大 学	各 学 校	外 部 高 校	海 外 婦 子 女
						からの推薦者	からの入学	からの推薦者	からの入学
大 学	経済学部	300	5,278	4,978	672	7.4	71	49	1
	工学部	200	2,836	2,543	484	5.3	6	69	0
	文学部	300	3,841	3,500	834	4.2	28	49	2
	法学部	300	6,011	5,485	819	6.7	21	20	1
計	1,100	17,966	16,506	2,809	—	126	187	4	
高 等 学 校	約 90	459	429	102	4.2	237			
中 学 校	約 110	473	463	111	4.2	135			
小 学 校	114	617	462	114	4.1	—			

五、昭和五十六年度高等学校卒業生の主な進学先

# 成蹊体育会だより

## 体育会委員長就任の御挨拶

体育会委員長 吉 岐 正

昨年十二月の体育会総会で委員長に就任して以来、早いもので四カ月が過ぎました。「光陰矢の如し」と言いますが、我々成蹊大学体育会も今年で創設三十周年を迎える事になりました。この三十年の歴史の中には、先輩方の築かれた強く深い伝統があります。伝統ある体育会の委員長に就任致しまして、改めて大きな喜びを感じると共に、その責任の重大さを痛感しております。

私は、体育会の人間の一人として、体育会というものは、『成蹊』の名を背負って、それに恥じない行動をするのだと信じています。又、体育会は、強く、勝たなくてはなりません。そのためには、あらゆる努力を怠らない事が大切です。それらの過程を通じて先輩・後輩のけじめ、協調性・連帯性、強い精神力や誠実さなどが生まれてくるのではないのでしょうか。そうすることによって、同じ苦しみや喜びを味わった者にしかわからない人間関係の輪が広がっていくのだと思います。私は、このような体育会の活動に充実感をおぼえ、それを教えてくれる体育会を至上の誇りに思っています。

過去において、我々の先輩方は、輝かした足跡を残し、成蹊大学体育会という、ゆるぎのないものを確立してこられました。我々は、その伝統にいつまでも甘えていくことは許されません。我々体育会は、『成蹊』の名に一步でも近づくように努力し、より一層強くなることを目標に頑張るつもりです。

最後になりましたが、毎年成蹊会より学内陸上競技大会、学内競漕大会に多数の御寄附並びに、十二月に行われます体育会総会で表彰選手・団体にトロフィー及び楯を御寄附いただいている事を体育会を代表しまして厚く御礼申し上げます。(空手道部)

# 昭和五十五年度体育会本部報告

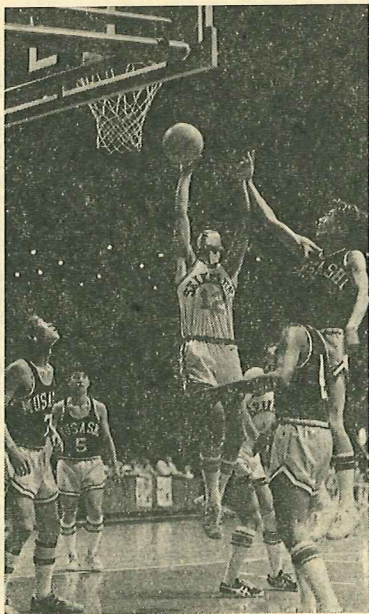
12月10日

## 体育会総会

優秀個人、団体、敢闘賞団体の表彰及び新役員の紹介が行われる。  
優秀個人 前田礼太(ゴルフ部) 神崎郁(硬式庭球部) 磯野剛太(山岳部)  
優秀団体 硬式庭球部女子 工学部 バスケットボール部  
敢闘賞団体 バドミントン部女子 ハンドボール部  
アーチェリー部男子 工学部 硬式庭球部

体育会総会において、優秀個人、団体、敢闘賞団体に贈られたトロフィー及び楯は成蹊会より御寄附いただきました。

2月23日、24日  
第14回リグーラス・キャンプ(河口湖レイクランドホテル)各部主将、主務、女子責任者が参加、23日にグループ別討論会、24日に全体討論会が行われる。



## 「成蹊学園運動部後援会」が発足

本年四月一日付で「成蹊学園運動部後援会」が発足、初代会長に石黒孝次郎氏(旧高12回・関東ラグビーフットボール協会会長)が就任しました。後援会の発足は、今まで各部OB会が各部毎に縦の線だけで結ばれていたものを横への繋がりもはかり、いわばOB会の連合体的性格をもって、体育会所属運動部の振興に寄与しようとするものです。

後援会設立の目的、経緯などの要旨は次の通りで運動部OBはもとより、成蹊会会員多数の理解と協力をお願い致します。

### 1 設立の目的 体育会運動部の発展強化

1、本会設立の主たる目的は「体育会所属運動部の発展強化」にある。この目的達成のためには基本問題として「成蹊スポーツの在り方」についての理念と具体的施策を確立し、それを継続実施していくことが必要である。  
2、基本問題の確立とその継続実施には、学校当局と調整を要する事項もあろうし、それなりの機能を持った組織体としての活動が必要である。  
3、各部の日常活動に対する資金援助は、各部OB会が夫々におこなうのが大原則であり、OB会の未成熟な部についてはOB会組織の整備、強化をはかっていく。

### 2 設立の経緯 各部の資金逼迫が発端

1、四〇年代後半におきた学園紛争により、学校当局が自治会費の代理徴収をやめたため、各部が資金面で圧迫を受け、各部現役から体育会本部を通じて、同本部役員OBに支援要請してきたのが本会設立の発端となった。  
2、支援要請を受けた本部役員OBは事態を重視し、現役代表と数次にわたる話し合いの結果次の結論を得た。

(1) 各部への資金援助は各部OB会がおこなうべきものであり、OB会の弱体なところは現役、OB協力して強化をはかる。  
(2) 運動部の振興のため、OB会の連合体の組織があることが望ましい。

3、前項の結論にもつき52年末に設立準備委員会を発足させ、各部OB会の強化と本会設置に当たっての必要事項の検討に入ると共に、各部OB会、

学校当局、成蹊会など関係各方面との調整をおこない理解、協力を得た。

4、一方、現役側の「OB会連合体」設立に対する要望は強く、具体的行動として体育会所属運動部員が卒業時に体育会本部に寄付金をおいていくことを定例化するなどの積極性を示した。(卒業時の寄付金は四六年三月、当時の体育会本部役員が発案で全卒業生に呼びかけたのがはじまり)

5、前項の寄付金は、部室近くに設置したコインランドリーの収益金も含め約二七〇万円に達し関係者の要望と好意に応えるべくこれを基本資金として本会発足の運びとなった。

### 3 当面の活動と会の運営 地道な活動で基礎固め

1、設立準備委員会では「時間がかかろうとも地道な活動と努力」を基調に対処してきた。本会も当面この基調を継続しつつ、本会設置の目的である運動部の発展、強化のための「理念と具体的施策」が何であるかを各部OB会はじめ関係者の意見も聴取しつつ逐次確立してゆく。

2、現役に対する資金援助、技術指導のための各部OB会組織の強化を引続きおこなう。

3、学校当局が体育施設増強のため、募金活動をおこなう場合などには、趣旨の徹底などにつき、全面的に支援する。

4、資金の増大をはかるための事業を検討する。OB各位からの会費徴収や寄付依頼は現在のところ考えておらず、会費的なものを徴収する場合でも各部OB会単位のものを検討する。

### 4 役員

会長 石黒孝次郎(旧高12・ラグビー)  
理事 山本 二郎(政経3・ラグビー) 月川 光司(政経7・馬術)  
飯田 太郎(政経15・水泳) 是永 和夫(法2・野球)  
石黒 浩(法3・サッカー) 必要によりOB会代表3名(未定)  
監査役 1名(未定)

### 5 会計(基金)

卒業時の寄付金、コインランドリー収益金の合計三四三万円の基金で発足致しました。(文責、山本二郎)

『成蹊実務学校教育の想い出』

昭和五十六年二月（枯林忌）発行

実務学校同窓会「桃蔭会」編輯

発行者 桃蔭会会長 第八回卒 青葉翰於

菊版約七百ページ 函入一冊 挿図三十枚

頒布実価（送料共）金二千円（代金後払い）

申込先 〒180 東京都武蔵野市吉祥寺北町三三十一

社団法人成蹊会あて

題簽

第五回卒 黒沢 清

本文目次

一 総説 編集委員長 第九回卒 川瀬 一馬

中村春二先生の実務学校教育 日本民族としての自覚

を抱かせ、人間はいかにあるべきかを教えた教育

二 桃蔭会会員想い出の記（第一回卒磯部慎治以下六十六名

執筆）

三 学業日誌

(1) 明治四十五年（大正元年）〔開校第一年〕

大正二年度〔同第二年〕第二回卒 甲神禮郎

(2) 大正八年以後廃校まで 第九回卒 川瀬一馬

四 附録〔資料篇〕

成蹊実務学校創立趣意書（明治四十四年九月刊）

成蹊実務学校一覽「桃蔭録」（大正三年十月刊）

紅蓮の舌（明治四十五年三月二十三日火災の記）

始業式賛助員祝辞

父を語る 第十一回卒 中村秋一

成蹊会報告

昭和55年12月1日  
昭和56年4月30日

一、会議

○理事会

第81回理事會

(1) 年会費（刊行物代）改定の件

(2) 昭和56年度事業計画及び収支予算案承認の件

(3) 評議員候補者推薦の件（理事会推薦分）

○特別委員会

広報委員会（3月4日）

○同窓会

(1) プレメ委員会（12月8日）

(2) やよい会総会（1月24日）

(3) 高校幹事会（3月3日）

(4) 文学部幹事会（3月6日）

(5) 政経委員会（3月11日）

(6) 高 校委員会（3月30日）

(7) 文学部委員会（4月4日）

(8) 小学校委員会（4月7日）

(9) 工学部委員会（4月9日）

(10) 旧 高委員会（4月20日）

支 部 会

東海支部創立30周年記念会（1月29日・名古屋）

二、事業

○成蹊会誌（12月15日） 成蹊会誌第52号発行

○催 物

1、第58回枯林忌（2月21日）

成蹊学園創立者中村春二先生の御墓参りと

追悼会（栗鴨染井墓地・三菱スポーツセンター）

2、第4回成蹊桜祭（4月5日） 桜祭実行委員会主催（成蹊会後援）

○後 援 金

1、成蹊実務学校教育の思い出 三〇万円

2、支部 一四万円

3、大学体育会 一三万円

4、大学祭 一〇万円

蹊医会お知らせ

皆様には蹊医会（こみち医会）とは聞きなれない言葉と思います。この会は成蹊学園卒業生でかつ医師である人が現在の学園保健活動に奉仕する集まりです。

健康診断、夏の学校、冬の学校、修学旅行をして日常の健康管理と保健管理センターがなみなみならぬ活動をしています。しかし、実際に動く医師の数が少ないのが実情です。そこで今度夏の学校を通じて学園に協力してきた諸先生を中心として、学園のために保健奉仕をする集りを結成しました。前年につづいて今回も桜まつりの日に職員食堂の一部をお借りして約20名の医師が熱く、ほく討論をしました。

現在我々の一番の問題は「いかに会員を増やすか」ということです。学園としても実際に活動して下さる医師以外に学園へ協力し専門知識を生かして下さる医師を求めています。成蹊会の会員で医師の皆様。地方の方でもかまいません。連絡をお待ちしています。

〒180 武蔵野市吉祥寺北町三三十一 成蹊学園 保健管理センター

蹊医会の年間行事について

① 桜まつりに総会をひらく。

② 「夏の学校医師」連絡会はこの会を通して今後のあり方を話しあ

う。

③ 健診は今まで通り管理センターの活動内とする。

④ 夏の学校の前（七月上旬）後に参加する又は参加した医師の連絡会をひらく。学園には代表者のみ参加していただく。

⑤ 修学旅行に関して、

① 医師連絡網を作り、同行はしないでも良いのではないかと。

② 山など医療施設の不備な場所と考えられる場合は臨機応変とする。

③ 修学旅行の時期にまとまって休みをとることが非常にむずかし

く、又附添いする価値もないと考える。

（渡辺千春記）

あとがき

○本誌の巻頭に、黒沢清先生とのインタビュー記事飾らせていただいた。少年期に成蹊で学び、会計学の碩学でもある先生が、成蹊瀟湘の経緯を物語る下りは、正に成蹊教育の原点に触れる思いで、是非一読をお薦めする。

○成蹊会誌は年二回発行し、年間二冊で64ページを予定している。今回は郵送料の関係で25ページにしたので、いささか侘しいが、次号は会員名簿

物故会員

中村 浩 (旧高3)	昭和55年12月30日
大内 一彦 (特別会員)	昭和56年1月31日
山田 俊一 (高)	昭和49年11月30日
茂木 恵子 (小)	昭和54年6月
押見 真実 (文)	昭和53年11月7日
杉村 弘二 (旧高)	昭和54年10月28日
小林 篤司 (工)	昭和55年7月29日
小川 雅太郎 (政経)	昭和55年9月15日
植村 伸 (政経)	昭和55年11月12日
松本 秀次郎 (専別)	昭和55年12月23日
小布施 志郎 (小)	昭和55年12月27日
日高 澄子 (女)	昭和55年12月28日
原野 律郎 (旧高)	昭和55年12月29日
浅沼 武平 (専)	昭和56年1月16日
石附 孝 (高)	昭和56年2月2日
吉川 義孝 (経)	昭和56年4月13日
宇南山 夫 (実)	昭和56年4月23日
中田 専一 (旧高)	昭和56年4月30日まで

昭和56年6月1日  
編集兼発行人 谷岡喜久蔵  
発行所 社団法人成蹊会  
〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1  
電話 0422-51-2244